

はまな

No.592 2026 年 7 月

静岡県水産・海洋技術研究所浜名湖分場

〒431-0214

静岡県浜松市中央区舞阪町弁天島 5005-3

TEL 053-592-0139 FAX 053-592-0906

<https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/hamanako>

e-mail:suigi-hamanako@pref.shizuoka.lg.jp

目次

2025 年漁期のトラフグ漁について	・・・ 1
2025 年のウナギ及びアユ養殖の生産及び魚病発生状況について	・・・ 3
2025 年度のシラスウナギ採捕結果	・・・ 5
2025 年度の業務分担について	・・・ 6
転入職員の紹介	・・・ 6
体験学習施設ウオットより	・・・ 8
分場日誌(2026 年 3 月～6 月)	・・・ 9
弁天島の水温・比重(2026 年 3 月～6 月)	・・・ 10

写真：舞阪漁港での水揚げ風景

2025 年漁期のトラフグ漁について

田中 寿臣

静岡県におけるトラフグはえなわ漁の 2025 年漁期（2025 年 10 月～2026 年 2 月）の漁獲量は 16.5 トンと前年漁期（11.5 トン）の 143%でした。トラフグはえなわ漁の漁獲量と平均単価の推移を図 1 に示します。漁獲量は過去の好漁期と比べるといまだに少ないですが、過去最低を記録した 2021 年漁期（3.8 トン）以降は増加傾向にあります。一方、2025 年漁期の平均単価は 3,097 円/kg と、1993 年漁期以降で過去最低を記録した前年漁期（2,916 円/kg）をやや上回ったものの、過去 3 番目に低い単価となりました。これは、前年漁期に引き続き、本県を含む近隣県や関東以北で漁獲量が多かったことが原因と推測されます。結果として、2025 年漁期の水揚げ金額は 51 百万円となり、前年漁期（34 百万円）の 152%となりました（図 2）。

2025 年漁期の推定漁獲尾数は 11,767 尾と前年漁期（11,037 尾）の 107%とやや上回り、過去 10 年間で比較すると 2014～15 年漁期に次ぐ尾数でした。しかし、例年漁獲の中心となる 1 歳魚の漁獲尾数の割合は、前年漁期は全体の 80%を占めたのに対し、2025 年漁期は 26%しかありませんでした（図 3）。一方、2 歳魚の漁獲尾数の割合が全体の 63%を占める結果となり、これは 1993 年漁期以降過去最高だった 2016 年漁期（57%）を上回り、過去最高となりました（図 3）。

次に、資源量動向の目安となる 1 日 1 隻当たりの漁獲尾数は、2025 年漁期は 1 歳魚において 7.1 尾/日/隻と前年漁期（21.5 尾/日/隻）の 33%と大幅に減ったものの、2015 年漁期以降では 4 番目に高い値となりました（図 4）。また、2 歳魚においては 2025 年漁期が 17.2 尾/日/隻と、2015 年漁期以降では過去最高を記録した前年漁期（4.8 尾/日/隻）を大きく上回る結果となりました。これらのことから、2025 年漁期に 2 歳魚の割合が多かったのは、1 歳魚の資源が悪かった訳ではなく、2 歳魚である 2023 年生まれの加入状況が非常に良かったからだと言えるでしょう。

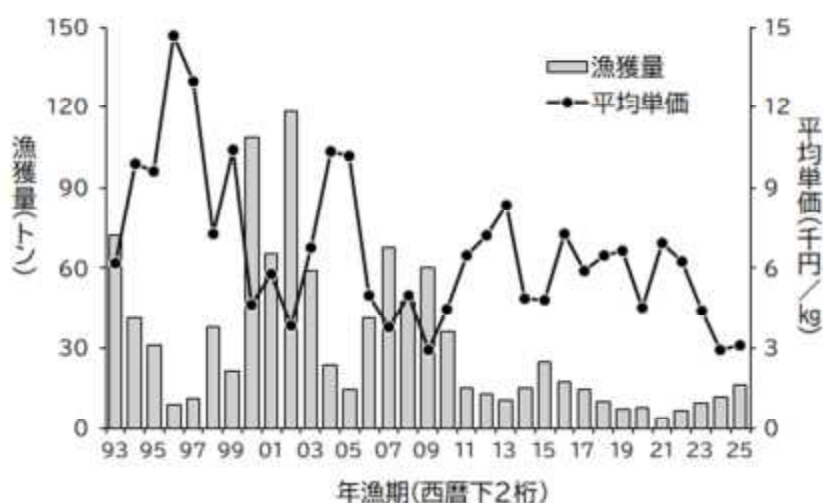


図1 静岡県トラフグはえなわ漁におけるトラフグ漁獲量と平均単価

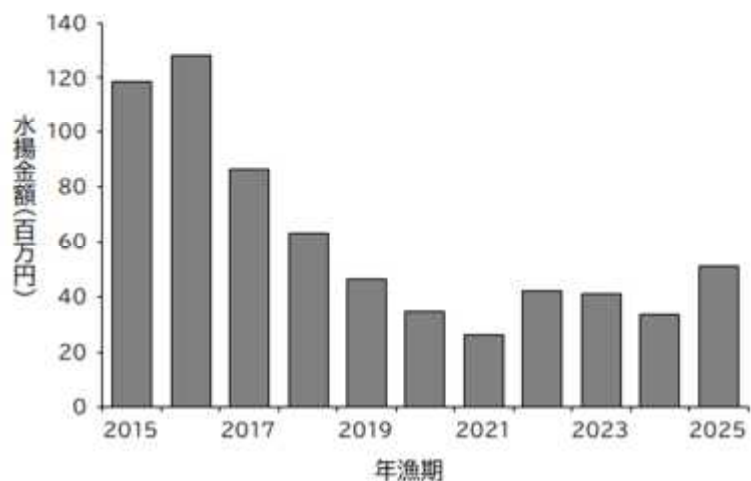


図2 静岡県トラフグはえなわ漁における水揚金額

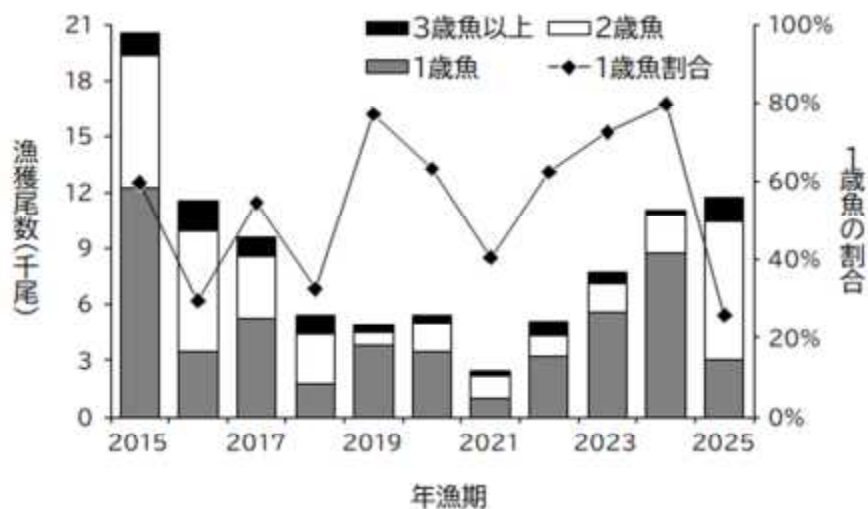


図3 静岡県トラフグはえなわ漁における年齢別漁獲尾数の推移と1歳魚の割合

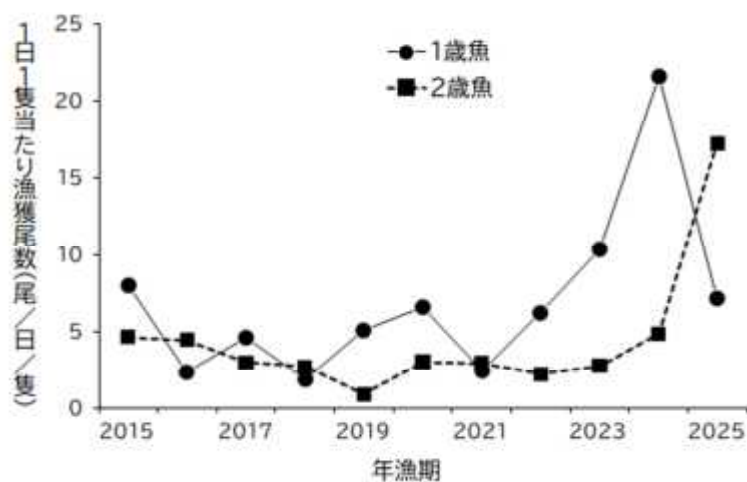


図4 静岡県トラフグはえなわ漁における年齢別の1日1隻当たりの漁獲尾数

2025 年のウナギ及びアユ養殖の生産及び魚病発生状況について

水越 麻仁

本県における 2025 年のウナギ及びアユ養殖の生産及び魚病発生状況を把握するため、県内養殖業者を対象にアンケートを実施しましたので、その結果をお知らせします。

Ⅰ 養殖の状況

2016 年から 2025 年の生産状況の推移を表 1 に示しました。農林水産統計値のある項目はその統計値を記載し、統計値のない項目はアンケートの集計値を回収率で割り戻して計算した推定値を記載しました。

(1) アンケート回収率

アンケートの回収率は、ウナギ養殖業者では 89% (53 軒に配付し 47 軒から回答)、アユ養殖業者では 88% (8 軒に配付し 7 軒から回答) でした。

(2) 生産量及び生産金額

①ウナギ

2025 年の生産量は 1,945 トン (前年比 108%)、生産金額は 83.2 億円 (前年比 98%)、平均生産単価は 4,280 円/kg (前年比 91%) でした。

②アユ

2025 年の生産量は 102 トン (前年比 137%)、生産金額は 1.4 億円 (前年比 124%)、平均生産単価は 1,373 円/kg (前年比 91%) でした。

表1 ウナギ及びアユ養殖の生産状況

西暦 (年)	ウナギ				アユ			
	経営体数 (軒)	生産量 (トン)	生産金額 (百万円)	平均生産単価 (円/kg)	経営体数 (軒)	生産量 (トン)	生産金額 (百万円)	平均生産単価 (円/kg)
2016	55	(1,654)	6,188	3,733	7	(165)	228	1,385
2017	55	(1,705)	5,553	3,257	7	(138)	182	1,316
2018	55	(1,457)	6,183	4,244	7	(115)	145	1,263
2019	55	(1,534)	6,635	4,325	10	(98)	109	1,475
2020	54	(1,536)	5,867	3,820	10	(91)	103	1,128
2021	54	(1,557)	5,641	3,623	9	(67)	80	1,193
2022	54	(2,365)	10,760	4,550	9	(66)	96	1,449
2023	53	(2,255)	10,635	4,716	9	(64)	101	1,577
2024	53	(1,791)	8,419	4,701	9	(74)	112	1,515
2025	53	1,945	8,323	4,280	8	102	140	1,373

* カッコ内の値は漁業・養殖業生産統計(農林水産省)による。

* 生産金額は、農林水産統計の生産量及びアンケートによる生産単価から推定

2 魚病被害の発生状況

2016 年から 2025 年の魚病被害状況の推移を表 2 に、直近 3 年のウナギ及びアユ養殖の疾病別被害状況を表 3 と表 4 にそれぞれ示しました。なお、これらの数値はアンケートの集計値を回収率で割り戻して計算した推定値です。

(1) ウナギ

2025 年の被害量及び生産量に対する被害割合はそれぞれ 61.5 トン及び 3.2% となり、前年から減少しました。疾病別被害状況は、骨曲がり（原因不明）の被害量が最も多く、29.4 トンでした。次いで、パラコロ病（細菌感染症）が 10.7 トン、ウイルス性血管内皮壊死症が 10.3 トンとなりました。前年に増加したカラムナリス症や板状出血症は減少しました。

(2) アユ

2025 年の被害量及び生産量に対する被害割合はそれぞれ 23.8 トン及び 23.4% となり、前年より増加しました。疾病別被害状況は、通称「ボケ」といわれている異型細胞性鰓病が 5.4 トンで全体の約 20% を占めました。冷水病が 0.6 トンでした。今回、病名では「不明」となっている疾病の被害が 17.1 トンで全体の 74% を占めました。

3 医薬品等の使用状況

(1) ウナギ

2025 年のウナギ養殖における水産用医薬品の使用量は 480kg（前年：442kg）で、前年より増加しました。

(2) アユ

2025 年のアユ養殖における水産用医薬品の使用量は 82kg（前年：16kg）となり、前年より大きく増加しました。

表2 ウナギ及びアユ養殖の魚病被害状況の推移

西暦 (年)	ウナギ				アユ			
	被害量 (トン)	被害割合 (対生産量) (%) *1	被害金額 (百万円)	被害割合 (対生産金額) (%) *2	被害量 (トン)	被害割合 (対生産量) (%) *1	被害金額 (百万円)	被害割合 (対生産金額) (%) *2
	(トン)	(%) *1	(百万円)	(%) *2	(トン)	(%) *1	(百万円)	(%) *2
2016	73.2	4.4	186.9	3.0	11.9	7.2	16.4	7.2
2017	100.2	5.9	253.3	4.6	3.9	2.8	6.2	3.4
2018	98.0	6.7	303.5	4.9	6.3	5.5	9.2	6.3
2019	91.1	5.9	282.4	4.3	7.2	7.3	15.2	13.9
2020	69.5	4.5	173.4	3.0	6.8	7.4	22.6	22.0
2021	92.3	5.1	252.1	4.5	3.5	3.8	8.1	7.3
2022	79.4	3.4	300.0	2.8	4.2	6.4	6.4	6.7
2023	66.8	3.0	201.2	1.9	9.6	15.0	20.5	20.3
2024	69.2	4.0	228.7	2.8	9.0	11.2	16.0	13.1
2025	61.5	3.2	236.0	2.8	23.8	23.4	63.3	45.3

*1:被害量／生産量×100

*2:被害金額／生産金額×100

表3 ウナギ養殖の疾病別被害量 (kg)

病名	2023	2024	2025
ウイルス性血管内皮壊死症	5,177	6,241	10,349
点状出血症	253	167	514
板状出血症	1,928	6,673	1,261
カラムナリス病	2,356	6,601	1,410
滑走細菌性鰓病	1,460	2,520	3,829
パラコロ病	7,052	7,687	10,695
寄生虫症	294	1,789	505
骨曲がり	39,441	34,427	29,390
その他	6,130	1,763	1,918
不明	2,719	1,353	1,668
合計	66,810	69,220	61,539

表4 アユ養殖の疾病別被害量 (kg)

病名	2023	2024	2025
ビブリオ病	252	113	57
冷水病	655	1,259	646
細菌性鰓病	0	0	0
真菌性肉芽腫症	0	0	0
チョウチン病	0	225	0
グルゲア症	28	0	0
通称「ボケ」※	7,072	1,830	5,410
その他	0	1,085	552
不明	1,575	4,500	17,143
合計	9,582	9,011	23,808

※異型細胞性鰓病

2025 年度のシラスウナギ採捕結果

市川 稜

2025 年度のシラスウナギ採捕は、採捕期間（2025 年 12 月 1 日から翌年 4 月 30 日までの 5 か月間）に、県下 19 地域で行われました。

2025 年度の採捕結果を表 1 に示しました。12 月の採捕量は 6.8kg と前年(42.5kg)の 16%、平年（2015～2024 年度の平均値：115.6kg）の 6%、1 月は 107.4kg と、前年（948.3kg）の 11%、平年（332.5kg）の 32%と、漁期序盤はかなり低調なスタートとなりました。

しかし、2 月以降は大幅に採捕量が増加し、2 月は 956.6kg と、前年（549.7kg）の 1.7 倍、平年（309.4kg）の 3.1 倍。3 月は 696.2kg と、前年（611.0kg）並み、平年（341.7kg）の 2 倍。4 月は 297.9kg と、前年（20.1kg）の 14.9 倍、平年（148.7kg）の 2 倍となりました。なお、本県ではウナギ資源保護の観点から、採捕地域ごとにシラスウナギ採捕量の上限を設けておりますが、3 月末以降、一部の地域では漁期終了前に上限に達し、採捕が終了しました。

最終的に、本県の 2025 年度漁期全体の採捕量は 2,064.8 kg と、前年（2,171.6kg）には及ばなかったものの、平年（1,242.0kg）を大きく上回る結果となり、2 年連続の豊漁となりました（図 1）。また本県に限らず全国的にみても豊漁であったほか、中国、韓国、台湾といった東アジア全体でも豊漁となりました。

一方、2 年連続の豊漁により、日本や中国で養殖ウナギの生産量が増加しました。その結果、ウナギが供給過多となり、出荷価格が下落しています。加えて養殖に使用する餌料代、資材代、重油代等の高騰も相まって、養殖業者を悩ませています。

表1 シラスウナギ採捕結果

		(単位:kg)					
		12月	1月	2月	3月	4月	計
浜名湖	2025年度*1	5.0	49.0	393.2	250.2	93.6	791.1
	2024年度*1	31.4	215.0	214.0	388.2	10.4	858.9
	平年値*2	53.3	125.1	123.0	139.2	35.3	475.9
遠州灘	2025年度*1	1.4	49.4	441.8	358.8	176.4	1,027.7
	2024年度*1	7.8	436.6	304.2	214.6	9.1	972.2
	平年値*2	54.5	140.1	147.7	173.8	93.9	609.9
その他地域	2025年度*1	0.4	9.0	121.6	87.1	27.9	246.0
	2024年度*1	3.3	296.8	31.6	8.2	0.6	340.5
	平年値*2	7.7	61.4	38.7	28.7	19.5	156.2
県全域	2025年度*1	6.8	107.4	956.6	696.2	297.9	2,064.8
	2024年度*1	42.5	948.3	549.7	611.0	20.1	2,171.6
	平年値*2	115.6	332.5	309.4	341.7	148.7	1,242.0

*1：年度とはシラスウナギの採捕期間である12月1日から翌年4月30日まで

*2：平年値は2015～2024年度の10か年平均

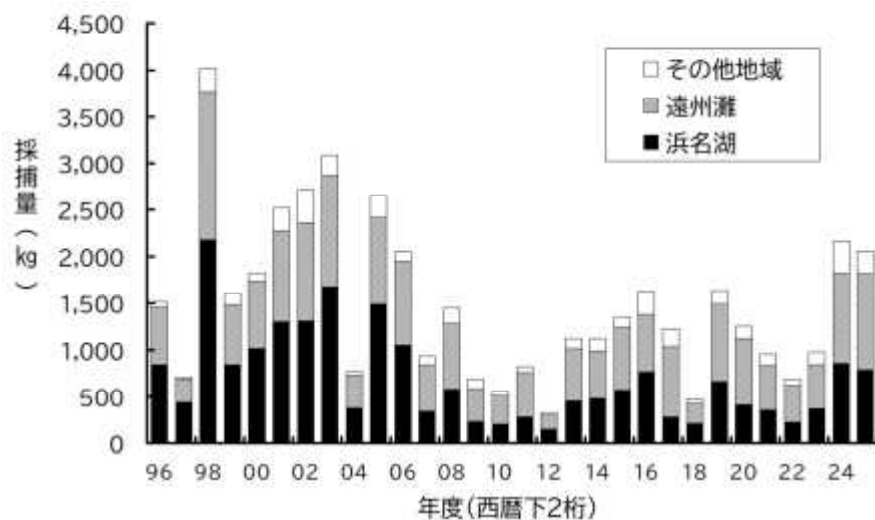


図1 静岡県のシラスウナギ採捕量の推移

2025 年度の業務分担について

職		氏名	主な担当業務
分場長		鷲山 裕史	分場業務の統括
総務	主任	鈴木 健祐	会計、人事給与、庶務、庁舎・運営管理の予算管理
研究	研究科長	田中 寿臣	試験研究の予算管理・企画調整、アサリ・トラフグ資源研究
	上席研究員	水越 麻仁	ウナギ人工種苗生産研究、魚病診断
	主任研究員	北川 裕一	アサリ資源研究、調査船の保守管理
	研究員	山本 高宏	天然ウナギの生態・資源調査研究、クルマエビ資源調査
普及	主査	霜村胤日人	普及指導(アサリ資源対策支援、漁業士会対応、広報)
	主任	市川 稜	普及指導(水質監視、湖内養殖業支援、魚病対応)
会計年度任用職員		佐原 山雄	庁舎設備の保守管理、試験研究補助
		加藤 裕之	調査船の運航管理、試験研究補助

転入職員の紹介

鷲山 裕史

4月の人事異動により、小林憲一分場長の後任として伊豆分場より着任しました鷲山裕史と申します。令和5年度まで浜名湖分場で研究科長を務めておりましたので、3年ぶりの分場勤務になります。

ご存じのように遠州灘のシラス船曳網漁業は、過去最低の漁獲状況から回復してきていますが、漁模様が安定していません。浜名湖内の最重要種であるアサリは壊滅的な状況であり、袋網（角建網・小型定置網）はクルマエビ等の甲殻類を始め漁獲量が低迷しています。さらに、カキ養殖も昨年有害赤潮の被害を受けるなど非常に厳しい状況が続いています。

少しでもこの状況を改善すべく、職員一丸となって業務に取り組んでまいりますので、皆様のご指導、ご鞭撻をお願いし、着任の挨拶とさせていただきます。

田中 寿臣

この４月から、鈴木朋和前研究科長の後任として着任しました田中寿臣と申します。アサリとトラフグの資源増殖に関する研究を担当します。浜名湖分場は３回目の勤務となり、１回目勤務ではトラフグの資源増殖に関する研究を、２回目勤務ではウナギの人工種苗生産に関する研究を担当していました。

浜名湖で喫緊の課題となっているアサリ資源対策については初めて研究を担当しますが、３月まで県庁の水産資源課で４年間アサリ資源対策の担当をしていた経験を活かし、トップスピードのまま研究に入り込めています。資源復活への転換点となるような仕事が出来よう頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

水越 麻仁

この度、浜名湖分場に配属されました水越麻仁（みずこしまひと）と申します。平成２７年度に普及指導員として着任し、３年間在籍していましたので、今回２度目の分場勤務となります。当時の関係者の皆様には、大変お世話になりました。

この４月からは、研究員として、国の研究機関等と連携してウナギ人工種苗生産研究に取り組むほか、前回同様、魚病対応やウナギの資源研究に関する業務にも携わらせていただきます。また、県西部地域における陸上養殖用輸入水産物の検査も担当いたします。よろしくお願いいたします。

北川 裕一

この度の人事異動で県庁マーケティング課から配属となりました北川裕一と申します。今回が３カ所目の勤務となりますが、浜名湖分場での勤務自体は初めてとなります。

当分場ではアサリの研究を担当することになりました。現在、浜名湖のアサリ漁業を取り巻く環境は非常に厳しい状況にありますが、現場の漁師さんや漁協の皆様にも少しでも明るいニュースをお届けできるよう、業務に向き合っていきたいと思います。

現場での調査や活動を通じて、皆様にお世話になることも多いかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

鈴木 健祐

この度、４月から人事異動にて総務担当として浜名湖分場に着任しました鈴木です。父の実家が湖西市にあり、幼い頃から浜名湖や遠州灘の恵みをいっぱいと感じながら育ちました。そんな浜名湖や遠州灘のために仕事ができることを嬉しく思っています。

３月までは空港管理課という部署にて、富士山静岡空港の運営に関する業務を担当しておりました。水産関連の部署の勤務は初となりますが、少しずつ勉強をしていきたいと思っております。浜名・遠州地域で水

産業を営むみなさまのより一層のご発展のため、当分場の研究員・普及員が業務に集中して取り組めるよう、精一杯努力する所存です。よろしくお願いいたします。

体験学習施設ウォットより

★企画展「サメ展 feat.エイ」を開催★

浜名湖体験学習施設ウォットでは、7月18日から9月6日の期間にて企画展「サメ展 feat.エイ」を開催します。

本企画展では水族館の人気者「サメ」にスポットをあて、浜名湖・遠州灘と関わりの深いサメの仲間の生体展示はもちろんのこと、ウォットに保管されているサメの標本も大公開！ サメと近い生き物である「エイ」も仲間に加えて、この夏のウォットを盛り上げます。他にも当企画の会期中特別イベントとして日・祝限定で「エイのタッチプール」を開催します。

また、今夏も毎年恒例の夜間営業「ウォットサマーナイト」を開催！ 8/8,15,22,29（いずれも土曜日）は18:30～20:30（最終入場 20:00）の時間も開館しています。それぞれの日付限定のイベント（要予約）の他、ヒトデやウニと触れ合えるタッチプールはいずれの日付でも開催予定！ ぜひお越しください！



※ 本コーナーに関するお問い合わせは、ウォット（TEL：053-592-2880）にお願いします。

（ウォット飼育員 狩野 厚志）

分場日誌（2026 年 3 月～6 月）

【3月】

- 4 日 広域種栽培漁業推進検討会・トラフグ（web）
- 5 日 定点観測
- 6 日 全国養殖衛生推進会議（web）
佐鳴湖シラスウナギ ALC 標識放流
- 9 日 普及課題設定協議会
- 10,11 日 新規栽培対象種資源対策事業（二枚貝）検討会（広島）
- 16 日 魚病対策委員会及び養殖衛生管理研修会
- 17 日 資源評価調査検討会・クルマエビ・クマエビ、拡大クルマエビ研究会（名古屋）
- 24 日 トラフグ資源管理型漁業実践推進漁業者協議会
- 31 日 広報誌はまな 591 号発行

【4月】

- 7 日 佐鳴湖ウナギ放流
- 9 日 令和 8 年度第 1 回新成長戦略研究検討会
- 15 日 定点観測
- 16 日 普及月例会
西部地域所属長連絡会
- 24 日 魚病講習会・浜名湖養魚漁協
漁業士会西部支部会
- 28 日 しずおか GAP 担当者会議
- 30 日 太田川ウナギ放流

【5月】

- 5 日 県立三ヶ日青年の家「青空ひろば」イベント対応
- 8 日 貝毒監視連絡会
青鰻会勉強会
- 12 日 定点観測
- 13 日 貝毒検査・舞阪
- 18 日 浜松市水産振興協議会
- 19 日 静岡県ふぐ漁組合連合会役員会
- 20 日 MaOI 機構「美しく豊かな静岡の海を未来につなぐ会」総会
- 22 日 普及月例会
- 26 日 第 287 回技術連絡協議会
- 27 日 貝毒検査・新居

全国湖沼河川養殖研究会理事会（web）

ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システムの実用化事業検討会（web）

29日 静岡県養鰻協会総会

【6月】

1日 太平洋南海域トラフグ放流効果モニタリングに関する関係機関打合せ（名古屋）

2日 定点観測

資源回復のための種苗育成・放流手法検討事業（ウナギ）計画検討会（横浜）

9日 第1回栽培漁業検討会（web）

10日 貝毒検査・舞阪

10,11日 新規栽培対象種資源対策事業（ニ枚貝）検討会（広島）

12日 鷺津ノコギリガザミ放流

18日 普及月例会

30日 水産庁トラフグ資源管理に関する漁業者との情報交換会

弁天島の水温・比重（2026年3月～6月）

月		2026年		平年※	
		水温	比重($\sigma 15$)	水温	比重($\sigma 15$)
3月	上旬	14.0	26.7	14.9	26.6
	中旬	14.1	26.7	15.1	26.8
	下旬	15.3	26.4	15.3	26.5
	平均	14.5	26.6	15.1	26.6
4月	上旬	15.7	25.8	16.1	26.2
	中旬	17.0	23.4	16.9	25.8
	下旬	17.7	24.9	17.9	25.6
	平均	16.7	24.8	17.0	25.9
5月	上旬	17.8	25.0	18.3	24.8
	中旬	20.2	24.6	19.6	24.3
	下旬	22.2	24.4	21.0	24.3
	平均	20.6	24.6	19.8	24.4
6月	上旬	20.8	24.0	21.7	24.3
	中旬	22.8	24.4	23.1	23.9
	下旬	23.0	20.9	24.2	23.7
	平均	22.1	23.2	23.0	24.0

※ 過去10年平均

関連情報をQRコードから確認できます

浜名湖分場	広報誌「はまな」	ウォット	関東・東海海況速報
			